

11 爪白癬に対する啓蒙活動報告

医療法人 偕行会長野 駒ヶ根共立クリニック

今井典子 中村里絵 園原由実子 平田聖文 河野啓一

【はじめに】

当クリニックではASO（閉塞性動脈硬化症）の早期発見のためにフットケアチームを立ち上げて3年半が経過した。

定期的に足観察を行っているが、白癬に感染していると思われる患者が多くいた。

足白癬・爪白癬は無症状でもある為 長期的な治療の必要性に対する理解が、得られにくい状況があった。

知覚に問題のない者にとって、白癬は放っておいても大きな問題にはならないかも知れない。

しかし糖尿病患者は、神経障害のために知覚が低下しており、一度感染を起こすと、潰瘍や壊疽を招き、下肢の切断に至る事もある為、放置することは非常に危険である。

そこで爪白癬の知識を一人でも多くの患者に広めたいと考え啓蒙活動に取り組んだ。

(写真①②③は角質増殖型白癬からの感染がきっかけで、足に潰瘍と壊疽を形成してしまった糖尿病患者の足写真)

【目的】

患者に対し爪白癬の知識の向上を図り、治療の必要性を認識してもらうための、効果的な啓蒙活動を探る。

スタッフにも共通の知識と認識を習得してもらい、患者への統一した指導に繋げてもらう為の学習会を開く。

【方法】

1. 爪白癬の治療に関するポスターと写真の掲示 (写真④)
2. 実際に内服治療を受けている患者の爪の写真を掲示 (写真⑤⑥)

3. スタッフにも共通の認識が必要であると考え、専門医による学習会 (写真⑦)
4. 患者に白癬菌とは何か?その治療は?の小冊子を配布し一人ひとりに直接指導 (写真⑧)

【結果】

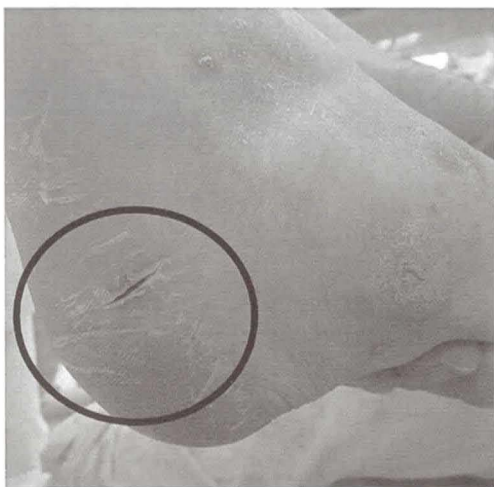
1. ポスターの掲示は眺める程度の患者や、全く無関心で見ようとする気もない患者もあり、実際に期待していたような反応は得られなかった。
2. 写真の掲示は、当初大きく興味を示す患者は少なかったが、2回、3回と写真を掲示するごとに最初の写真と比べると爪や皮膚が綺麗になっていく様子がよくわかる等の感想が聞かれた。(写真⑨⑩)
3. 専門医によるスタッフへの学習会は、白癬に対して共通の知識・認識を持つことができ、結果的に患者への統一した指導につながった。
4. 一人ひとりに配布した冊子を見た患者から、「これって水虫?」「同居している孫にうつしたらかわいそう・・・」「きちんと治さないとダメだね」「自分の爪の写真かと思った」家族からも、「靴下や靴を履かせにくく大変」等の言葉が聞かれ、冊子を配布したその日のうちに、約1割の患者から質問、診察、検査の希望があり、予想外の効果があった。また、足を見せたがらなかった患者が、更衣室での情報交換から再び写真を見て診察を希望するなど、約3割の患者から申し出があり、啓蒙活動の効果が見られた。

今井 典子 偕行会長野 駒ヶ根共立クリニック

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 4269

TEL(0265)82-5022

写真①



写真④



写真②



写真⑤



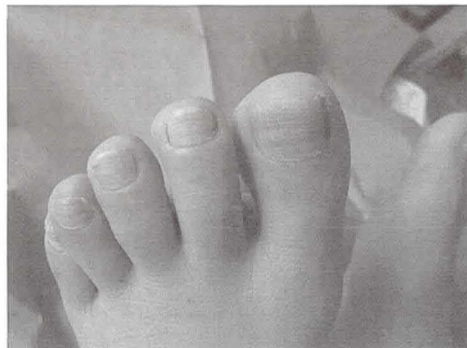
写真⑥ before



写真③



写真⑥ after



写真⑦ 学習会



写真⑧ 冊子配布



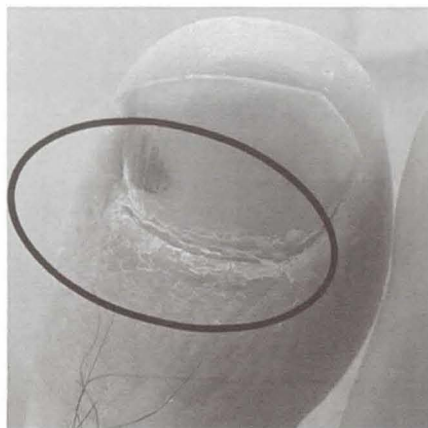
写真⑨ before



写真⑨ after



写真⑩ before



写真⑩ after



【考察・まとめ】

ポスターや写真の掲示は、患者の高齢化が進んでいる為か、実際に期待していたような反応は得られなかった。それは治療の必要性に対する認識の甘さがあると考えられた。

継続的な写真の掲示は患者が爪白癬に対し関心を高めるきっかけとなった。

爪白癬という言葉すら知らない患者が多数いたが、小冊子を配布し、一人ひとりに治療の必要性を説明した事が、一番効果のある啓蒙活動であったと言える。

また冊子を持ち帰ったことで患者の家族も目にする事ができ更に理解を得られた。

【参考文献】

「私達こうした水虫で悩んでいます」
(2004年4月ノバルティスファーマ社作製)